

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	‘地域に密着したグループホーム’を目指し、利用者の方々と地域にお住まいの方々が自然な形で相互交流できるよう、ホームでのイベントにご招待したり、地域行事に利用者の方々と共に参加するようにしている。	○	消火避難訓練等にも近隣の方々が参加くださり、普段の買物や散歩でも挨拶を交わしているが、まだまだ限定的である。利用者の方々が自然体で生活出来るように、スタッフが積極的にサポートして行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関等に掲示しているが、今春の退職と新規採用でスタッフが大幅に変わり、まだ全員が理念を熟知しているとは言い難い。しかし、文言としてではなく、日々の介護を行なう中で確認しつつ実践している。	○	理念は至極当然の内容でしかないが、いま自分達が行なっているケアの内容と理念を確認して、管理者とスタッフ同士が話合ったり教え合ったりしつつ、全員が理念を共有して日々のケアで実践出来るように取り組んで行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域にお住まいの方々やご家族にも参加していただき、利用者の方々がホームに孤立することがないように一緒に考えたり地域の行事にも積極的に参加するように取り組んでいる。	○	地域との関わりが、利用者・家族・地域の方々とも一部特定の方に限られていたり、また、いつも同じ(地域)行事への参加に止まっているので、もっとアピールをして、これらの範囲を拡げて理念の浸透を図りたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々とは立ち話もできる関係が出来ており、利用者の理美容・クリーニング等は近隣の方をお願いしている。また、近隣の方が採れたての野菜を届けてくれたり、花壇の手入れをしてくださる等、気軽なお付き合いが出来ている。		スタッフが気付かぬうちに利用者が外出していた時に、近隣の方が直ぐに知らせてくれたことがあり、利用者の方々にも、もっと顔馴染になっていただけるよう努力して、より多くの方々に気軽に立ち寄っていただけるように努めたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでの行事(クリスマス会や餅つき等)には隣近所の方々や近隣他G.H.の利用者・保育園児さん達を招待し、町内文化祭に利用者の作品を出展、中学生の体験学習も受け入れる等で、積極的な交流に努めている。	○	今年初めて、市民センター主催のウォーキング会に利用者・家族・スタッフで参加して、利用者の知り合いの方々から声を掛けていただいた。しかし、何れの行事・活動にも、参加できる利用者が限定しており、この点を改善して、地域との交流をより一層深めたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今春の退職と新規採用でスタッフが大幅に変わった現在は、新しいスタッフの研修に重点をおいている為に、地域の高齢者の暮らしに役立つことについては、特に取り組んでいない。	○	新規採用のスタッフが、グループホームとしての介護知識や技術を習得次第、地域にお住まいの高齢者の方々への貢献について取り組んで行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・以前からのスタッフは、評価の意義を理解して前回の評価を活用しているが、新規採用のスタッフが自己評価及び外部評価について十分な理解が出来ているとは言い難い。	○	全スタッフが、自己評価及び外部評価について理解して活用出来るように、介護の現場や会議等で検討して具体的な改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で自己評価及び外部評価についての報告をし、サービスの内容や評価への取り組みについての意見を出していただき、ケアの質の向上に活かしている。		運営推進会議を家族会と一緒に開催してみたところ、家族からの要望や意見を反映することができたので、毎回とはいかないが、この形での開催を継続したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と連携は運営推進会議が主体で、ホームでのイベント開催時等に参加を案内する以外は、問題事案発生の都度に相談をしている。	○	市町村担当者と往来を多くして、積極的な情報の提供と共有を図り、サービスの質の向上に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修会に参加して権利擁護や成年後見について学んでいるが、これを更に第三者に説明するほど充分ではないので、必要な場合に適切な窓口や弁護士等を紹介して活用できるよう、支援の準備を整えている。	○	現状では必要がなくても、何時かは必要になることが考えられるので、これらの制度の概略でも家族会や運営推進会議等の場で全家族に説明する機会を持ちたい。また、全スタッフがこれらの制度についての知識を有するように取り組みたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修会等で虐待防止について学んでおり、身体的拘束のみならず、精神的な虐待等も一切無きよう、また、些細なことも看過しないように注意を払って、虐待防止の徹底に努めている。		利用者とスタッフが親しくなればなるほど、お互いに親しみをこめてはいるが乱暴な言葉を使いがちになり易い。しかし、一歩間違えば虐待と受け取られかねないので、これらについても慎むようお互いに注意している。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結及び解約については、利用者と家族から十分な聴き取りと説明を行ない、相互に不安や疑問のないように理解・納得した上で契約書・同意書を交わしている。		契約内容に変更等が生じた場合にも、同様に理解・納得していただいた上で同意書等を交わしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の対応は勿論、利用者が運営推進会議に参加して意見や不満・苦情等を言える機会を設け、利用者が家族に伝えた不満等も率直に職員に言っていただけ環境を築いている。		利用者と家族には、何ら遠慮することなく意見や不満・苦情を言っていただけ環境・関係作りに努めたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には月毎の暮らしぶりや健康状態を手紙で報告、体調変化時には随時電話連絡している。また、月毎の預かり現金出納帳も送付し、職員の異動は来訪時に随時報告・紹介している。	○	ホーム便り(あしたば通信)を昨秋以来発行出来ておらず、最近になって地域の方々から発行を望む声も聞こえてきたので、何らかの形で再スタート出来るよう熟考中です。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から自由に様々な意見や不満・苦情を言っていただけよう、来訪時に尋ねたり、公的相談窓口のお知らせをお渡ししている。実際に苦情等があった場合には会議で検討して速やかなる改善に取り組んでいる。意見箱の利用は少ない。		「悩んでいるのは自分だけだろうか」との不安を持たれた家族からの要望もあり、また、運営推進会議に取り込むことで家族会も活性化しつつあるので、今は個々の家族同士で連絡を取り合える関係作りに取り組んでいる。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の受け入れ、利用継続の可否、スタッフの採用等、運営者や管理者は運営に関する殆んどの事案についてスタッフの意見や提案を聞き、ホーム運営の活性化に努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況変化に対応するため、スタッフとの話し合いの上で、場合によってはスタッフの配置に余裕を持たせるための勤務調整を行なうことがあり、人的要因で介護に齟齬を来たすことがないように努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の勤務希望には極力応じて、調理・夜勤専門スタッフも配置し、スタッフ同士が何でも話せる関係づくりに努めている。また、職員が代わった時には、利用者に応じた説明をして、以前と同じ係り方を維持できるように配慮している。	○	新規採用のスタッフには、認知症に対する理解を深め、介護の必要性など個々の利用者毎の情報を的確に伝えて、利用者に不安を与えないように指導しており、そのマニュアル化に取り組んでいる。
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢・宗教・出自等を理由に、職員の募集・採用対象から外すことはない。また、理美容・園芸・折り紙などスタッフの特技・能力を充分に発揮してもらえるような体制を取り、研修・資格取得サポート制度も設けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修は行っていないが、管理者等が外部研修を受けて、その内容についての資料を配布し、会議や日々の介護業務の中で利用者の人権尊重についての話をしている。		利用者に限らず、どのような場面でも、常に自分を相手の立場に置き換えて考え行動できるように指導し、話し合いを持っている。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員毎の研修計画はないが、立場や経験ではなく職員個々の向上心に応じた外部研修の受講を推奨している。また、運営者は日々の業務の中で、管理者を中心とした職員相互で助言・示唆できるよう、職員の質の向上を目指している。	○	現在、管理者が、特に新規採用の職員を中心として段階に応じた指導・助言が出来るよう、研修計画を作成中です。今後は、この計画に基づいた育成に取り組みたい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会の研修会には出来るだけ参加し、他のG.H.との合同勉強会や相互交流での情報交換などで、サービスの質の向上に努めている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間には、ゆったりとしたソファ・ベットのある休憩室でリフレッシュ出来て、スタッフ同士が何時でも自由に発言できる関係づくりに努めるなど、厳しさの中にも潤いのある職場環境を目指している。		この1年間は実施できていないが、出来れば年に2回程度の食事会開催の要望があり、実施に向けて考慮している。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの勤務状況・勤務態度を把握して、個々のスタッフの意欲・努力を認めることで、各自が向上心を持って働けるように努めている。		介護方針の決定やイベントの開催は、管理者や計画作成担当者を中心としたスタッフが自主的に行なっている。
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人とは自宅・施設等での担当者を介した面会を数回実施して、話を聞き様子を見て、利用開始前に、ある程度の信頼関係を築くことができるように努めている。		利用の要望があった場合には、本人が利用している事業所のスタッフの方々からも、生活状態や利用状態等を尋ねている。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族とも自宅・施設等での担当者を介した面会を数回実施して、話を聞き様子を見て、利用開始前に、ある程度の信頼関係を築くことができるように努めている。		利用開始前には協力的だった家族が、利用開始直後より非協力的となって来訪もなくなった事案があり、家族以上にはなり得ない虚しさ……努力の限界を感じることもある。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の相談には常時速やかに対応しているが、本人が望む生活と家族が望む生活にズレがある場合には、夫々に応じた施設サービス等についてもアドバイスをしている。		‘G.H.は、共同生活の場であり、介護の場であって、医療の場ではない’と何度説明しても、「もう本人には係りたくないから全てG.H.でしてくれ」と言い張る家族も居て、対応に苦慮している。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	予めの自宅訪問等で馴染みの関係を築きつつ、家族と相談しながら、短時間の通所から徐々に体験入居に移行するなどG.H.に馴染んでもらえるようになってから正式入居とする等、個々のケースに応じた工夫・対応に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や裁縫などを手伝ってもらってコツを教わったり、疲れているスタッフの肩を揉んでくれたり、お互いの健康に心配りをしながら、利用者職員が一緒に過ごしている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には利用者の状況を随時連絡して、家族が中心となって利用者を支えていくことの重要性をアピールし、一緒になって支援している。	○	本人の支援に家族が欠かせない状態であるのに、共に支えあうことを理解していただけない家族にこそ、その重要性を説いていきたい。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	出来る限りの来訪や外泊を奨め、毎週外泊する利用者を支援し、相互に情報交換しながら、家族がより良い関係を築いて維持できるように努めている。		親族を含めた家族関係が崩壊していたり、本人に係わることを拒否している事案等については、人権その他のシビアな問題が絡む為、その対応に苦慮しながら支援している。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の来訪を推奨し、馴染みの医師に往診してもらったり、戦友との再会を援助するなどの支援に努めている。	○	友人・知人の来訪も徐々に遠のく傾向にあるので、ホームでのイベントに招待する等の支援に取り組んでいきたい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	昼間は出来るだけリビングで過ごしてもらっているが、自室での生活を好む方には、スタッフが訪室して他の利用者と一緒に散歩に出掛ける等で、利用者相互の支えあえるよう努めている。		意思疎通の困難な方や、他の利用者の状況を理解してもらい難い方などには、スタッフが間に入って、利用者同士が孤立しないように努めている。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	徐々に疎遠になりがちではあるが、退居後も施設等を訪れて面会したり、家族が困った時には連絡をもらえるよう案内し、お盆には仏前でお線香をあげさせてもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩を好まれる方の意向で地域のウォーキング大会に参加するなど、個々の利用者の思いや希望を把握して実現するために、日々の行動や表情の変化に注意して、積極的な係わりをもつように努めている。	○	意志表示が難しくコミュニケーションが取りにくい方にも、より多く係わることで、その方の思いや希望を把握して実現出来るよう、更に努力したい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りを行って‘センター方式シート’に記入することで、利用者一人ひとりがこれまでに歩まれてきた暮らしぶりなどの把握に努め、職員同士が共有できるようにしている。	○	ご本人やご家族の記憶が曖昧で、以前(特に、若い頃)の暮らし振りが分からないことが多々あるので、家族以外の来訪された方々からもお話を伺って、センター方式を活用していきたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の利用者の行動・言動や表情を、よく観察して声掛け・問掛けをすることによって、利用者の暮らしの満足度や心身の状態を把握するように努めている。	○	行動障害のある利用者によくの時間をとられがちである。今後は、そうでない(ある程度普通に生活できる)利用者の方々と係わる時間を意識的に多くするようにして、現状を総合的に把握するように努めたい。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症レベルによっては、本人と話し合うことが難しい場面もあるが、介護計画には利用者本人の意向とともに、ご家族の願いをも反映されるように、職員で話し合いながら介護計画を作成している。	○	今後も、できる限り利用者本人と一緒に「生活の目標」を考え、本人やご家族等の意向を今以上に盛り込んで、地域で個性を活かした生活を送ることが出来るような介護計画を作成する努力したい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全利用者の介護計画検討会(ケアカンファ)を月に1回は実施し、利用者やご家族の状況等に变化や要望があった場合には、必要に応じた介護計画の見直しを速やかに行なっている。		介護計画の更新・見直しに際しては、新たな要望や変化が見られない場合でも職員の意見をよく聞いて、計画変更の必要があるか否かについても検討したい。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を見れば個々の利用者の生活を見ることが出来るように、会話の内容なども記録するようにして、介護計画の見直しや介護の実践に活かせるよう努めている。	○	新規採用の職員にも介護計画の必要性、個別記録の方法等を理解した上で、各利用者の担当スタッフが責任をもって考えて意見を出し合い、情報を共有しながら介護の実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	心身状態が重度化した場合には、協力医療機関医師等との連携を強化して対応できる体制を布いている。また、訪問マッサージやスポーツインストラクターによる‘体動レク’を行なうなど、個々の要望に応じて柔軟に対応している。		これからも、利用者本人やご家族の状況に応じた柔軟な対応で支援していけるよう努めたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消火避難訓練には近隣の方々と一緒に消防署員から指導を受けている。また、ボランティアの方々がお化粧や草刈・園芸等に訪れてくれ、地域と協力しながら利用者を支援している。		小・中学校の総合学習・職場体験学習等やボランティアによる演奏会なども行なっており、これらを通じてグループホームを理解していただき、地域との協働を深めたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	日常より他事業所と相談や情報交換などの交流をしている。また、県G.H.協議会より紹介を受けた認知症専門医より必要に応じたアドバイスを戴いたり、訪問マッサージも利用している。	○	利用者が他のサービスを利用するための情報を収集し、更なる生活の質の向上に努めたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター職員の参加する運営推進会議を家族会と一緒に開催して、ご家族へのアドバイスをも戴くなど、多岐に亘って協働できるよう話し合っている。	○	事業所の多機能性を活かすためにも、もっと地域包括支援センターとの協働を多くするよう努めたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医と協力医療機関何れでも受診出来る。協力医療機関以外への受診は家族が行なっているが、その際に利用者の状態を説明できるよう資料を用意している。また、報告票で全職員が受診結果を把握している。		総合病院等のかかりつけ医との連携は難しい面が多々あるので、利用者の状態を詳しく伝えたい場合には管理者等がご家族と受診に同行し、資料を示しながら相談して良好な医療を受けることが出来るよう支援している。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	県グループホーム協議会より認知症に詳しい専門医の紹介を受けており、必要に応じて相談・受診・治療を受けられるようにしている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常の健康管理や疾病を患った場合には、主に協力医療機関の医師・看護師あるいは調剤薬局の薬剤師等にいつでも相談できる体制を布いている。		今後もこれを継続して、利用者の健康の向上に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時には、ご本人が安心できるよう管理者等が面会して担当医師・看護師・理学療法士等に入院以前の状態などを伝えるなど、早期退院に向けての情報交換を行なっている。		退院の時期の見極めは難しいので、関係者と十分に話し合い、退院後の生活についてのアドバイスも戴くようにしていく。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況に応じてタイミングを見計らって、ご家族やかかりつけ医等と話し合うようにしている。	○	できるだけ早い段階から、重度化した場合や終末期の対応についてご本人やご家族と話し合って意向を把握するように努めたい。また、多くの関係者と連携をとり、ご家族と一緒に支援できるように体制を強化したい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	大きな行動障害が表出するような認知症の重度化や終末期が近づいた場合、ご家族へ逐一報告し、重度化により事業所で対応できないことや、終末期にはご家族に常駐していただくなどの話し合いを行なった上で、対応している。	○	重度化した場合や終末期にもより良く暮らしていただけるチームケアについて、事業所として「出来ること、出来ないこと」の見極めを行い、医療機関や他施設に任せられた方が良いのかどうか等も含め、担当医師や職員・ご家族で話し合って対応していきたい。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを最小限に食い止めるため、ご家族をはじめ、医療や福祉の関係者と話し合っ、必要に応じた情報提供を相互に行なっている。		住み替えの必要があるときには、管理者や職員が本人・家族等と一緒に先方を訪問して情報を共有することで、お互いが安心できるよう配慮している。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の利用者の個性とプライバシーを尊重し、声掛けや介助については場所とタイミングに留意することや、個人情報の取り扱いの重要性について、研修や会議で確認しあっている。	○	新しいスタッフを含めた全員が、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアを行なえるようにして、個人情報保護の周知徹底にも今以上に厳しく対応したい。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日の着替えや献立・外食メニュー等、個々の利用者の希望の表出と自己決定を大切にしており、日常的な選択の場面作り等で、それらを促すような支援を行なっている。		日常的な会話だけでなく、認知症や失語症で会話によるコミュニケーションが難しい方は、身振りや筆談で、ご本人の希望の表出や自己決定をしていただけるような関係作りに努めている。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が拒まれたときも無理強いせず、ご本人のペースと意思を尊重し、どんなに時間がかかっても、その人らしい生活を送ることが出来るよう、スタッフは側面から支援している。		今後も継続して、利用者の生活の質の向上に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	髭剃り・整髪等の身だしなみに気をつけ、本人と相談して洋服を選んだり、スタッフがヘアカラーをしてさしあげることもある。理美容院では、好みの髪型を伝える等の支援をしている。		今後も継続して、利用者の生活の質の向上に努めたい。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの出来ることに応じてメニュー作りから利用者に参加していただき、買出し・調理・盛付け・配膳・片付けまでを一緒にしている。また、普段から利用者とスタッフが同じ食卓を囲むことで、楽しく食事を摂っていただいている。		今後も、このシステムを継続して、利用者の食事が楽しいものとなるように努めたい。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	原則として禁酒・禁煙だが、個々の健康状態に配慮しながら、お菓子や飲み物などの買い物にスタッフと一緒に出掛け、何を买おうかと考えるところから楽しんでいただいている。		利用者の健康と安全及び衛生管理の観点から、一部の嗜好品はやむを得ず(ご本人やご家族等の了解のうえ)、一時お預かりすることもある。
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意・便意が次第にわからなくなり、衣類や床を汚し、ご本人が不安なるほど認知症が進んでも、排泄パターンを知り、それに合わせた声かけや誘導を行なうことで、失禁防止に努めている。		トイレの声掛けに嫌がって失禁を繰返す方にも、気持ちよく和むように働きかけて誘導する等、個々に合わせた対応をしていきたい。また、排便も薬に頼らないよう支援していきたい。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は概ね職員の都合で決まっているが、その中でも早く入りたい方や夕方が良い方等の希望には浴うようにしている。また、入浴剤を使ったり菖蒲湯・ゆず湯などで入浴を楽しめるよう工夫・支援している。	○	出来る限り一般家庭での入浴の時間帯に近づけるよう、改善したいと考えており、日によっては夕食後に入浴していただけるよう工夫していきたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活を把握し、日中でも自室や和室・マッサージチェアで休息・昼寝をしていただけるよう声掛けをし、夜間眠れない場合には散歩等で生活パターン改善の対応を行なっている。		今後も継続して、利用者の生活の質の向上に努めたい。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意のうどん打ちや煮豆を作り、裁縫やイベントの飾りつけ等で、利用者が各々の楽しみや出番を見出せるよう、相互扶助の気持ちで個々に合った場面を作ったの支援を行なっている。	○	裁縫等は、危険防止のためにスタッフが手を出しすぎる傾向があるので、意欲を削ぐことのないように努めたい。また、センター方式を活用して個々の生活歴や力を今以上に把握して役割や楽しみ等の支援を行なっていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している利用者もいるが、基本的には金銭はホームでお預かりをして管理し、その都度お渡しするようにしている。	○	利用者の希望や力量に応じた支援を行い、ご自分でお小遣い程度の金銭管理ができるような支援体制に向けて努力したい。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天の日には、できるだけ散歩や外気浴が出来るように声掛けをして、個々の希望に応じて、自然の中で楽しめるような雰囲気づくりに努めている。	○	認知症や身体的レベルの個人差が大きく、一対一対応の外出支援になっている現状がある。スタッフだけでなく、ご家族の協力も得て、より多くの外出ができるよう努めたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	馴染みの場所や利用者が行きたい場所を把握して、当ホームの車を使って、スタッフやご家族と一緒に出かけられることが出来るよう支援している。		今後も継続して、利用者の生活の質の向上に努めたい。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合には見守りのもと、掛けていただいている。掛かってきた電話は必ず取り次いでいる。また、季節のお手紙を書くよう勧めており、年賀状は毎年出している。	○	スタッフは、利用者自らが電話やはがき等で家族に近況を伝える機会を導き出す努力をして、交流の支援を強化したい。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	「利用者が『自宅であれば、こうたであらう』」を考えて、来訪者には茶・菓子を提供し、おもてなしの心で心地良く過ごしていただき、また、気軽にお越しいただけるように心掛けている。		今後も更に工夫を継続し、誰もが何時でも自由に訪問して下さることが出来るように支援し、利用者の生活の質の向上に努めたい。
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はもちろん、ベッド柵の位置やスピーチロックなど、用法を少しでも誤ると身体拘束になることを研修会等で学び、これを理解して実践するよう努めている。		これからも、新しいスタッフを含む全職員が、身体拘束をしないケアについて具体的に理解し、実践していけるように、勉強会を設けていきたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に玄関を施錠しているのは、常時職員が傍にいないと出て行かれて交通事故等になる恐れが高いからである。また、不審者が侵入したことがあり玄関の開放は無用心とも考えている。	○	防犯以外の目的で施錠することのないように、利用者との係わりや見守りの工夫をしていきたい。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に個々の利用者的人格とプライバシーを尊重した言葉かけ(訪室時のノック、挨拶など)で対応し、利用者へ背を向けることのない体制で日々のケアを行なっている。		これからも、プライバシーを尊重しながら、利用者の安全に配慮していくよう努める。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一般的に洗剤・髭剃りなどの注意が必要なものは、クローゼットなど施錠できる所に保管しているが、居室においては個々の状態に即した対応をしている。		危険なものを部屋から取り除くのは最低限のものとし、一人ひとりの状態に合わせた支援をしていきたい。
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアル等を作成して対応している他、ケアカンファでも、転倒や誤嚥の恐れがある利用者個々の状態に応じた対策を話し合っている。		見守るだけでなく、転倒の恐れのある場合には下肢筋力アップを、誤嚥の恐れのある場合には食物を適度な大きさに刻んだり、嚥下体操をするなどで、個々に応じた対応を充実させたい。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の訓練は行っていないが、協力医療機関と連携し、個々の利用者についての緊急連絡手順を整え、直ぐに対応できるようにしている。	○	利用者の急変や事故発生に備え、救命救急の講習会や研修を受講し、これらに対応できる知識や技術を習得し、全職員での訓練を定期的に行なっていきたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な消火避難訓練には、利用者だけでなく近隣の方々にも参加いただいております。災害時には利用者の保護などを依頼し、協力を得ている。	○	これまでは、昼間火災を想定した訓練を行ってきたが、今後は、地震・台風などの風水害や夜間災害を設定した訓練も行ない、災害に備えた備蓄等についても検討したい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	医療機関ではないので対応しきれない場合、また、どうしても防ぎきれない事案等もありうることを説明したうえで、ご自宅に近い自然な状態となるよう話し合っている。		リスクについては、その都度、ご本人やご家族との話し合いの場をもっており、これを今後も継続して、ご本人にもご家族にも抑圧感のない生活の提供を維持したい。
		(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援		
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	Vital Check等を毎日実施している。また、毎月1回、協力医療機関医師による診察を受けて、体調に変化が見られた場合には、家族に連絡して速やかに受診していただいている。		体調変化などで、利用者に転倒や脱水症状の恐れがあるときには、その都度、ご本人やご家族との話し合いの場をして、対応が遅れないように今後も継続していきたい。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように個人別与薬票を作って、処方された薬の仕分けから与薬までに3度のチェック体制を布いている。新しい処方薬の場合は、体調変化に注意している。	○	利用者が服用している薬について、全職員が目的・用法・容量・副作用を理解するよう、また、薬の内容が変わったときには、職員間でその情報を共有し、理解するように努めたい。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況を把握し、バランスの良い食事と運動や水分摂取等でスムーズな排便となるよう支援している。便秘がちな方には、豆乳やヨーグルト等での解消に努めている。		便秘を改善する薬などには極力頼らずに済む工夫をするとともに、運動・食べ物・水分摂取での便秘予防にも、これまで以上に取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご自分で十分な歯磨きをすることが困難な利用者には、毎食後に歯磨き介助やうがいをしてもらうなど、口腔内の清潔が維持できるよう支援している。	○	自立している利用者にも歯磨きが出来ているか確認して、残存歯を大切にしようとする支援に努めたい。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・飲水量・血液検査・体重測定等で栄養状態を把握し、食が進まない方には粥・雑炊・卵豆腐などを、飲水量の少ない方には豆乳やカルト等、好みのものを選べるようにしている。		利用者本人に嫌いな食物がある場合には、状況によっては別メニューで対応することもある。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを作成し、特に注意が必要な時期には勉強会等で資料を配布して確認合っている。また、専属の管理栄養士を中心として食中毒の予防に取り組んでいる。	○	感染症の予防・対策と、万一発生した場合の対応策等についての理解を深めるため、研修会等に積極的に参加し、事業所内研修も充実させていきたい。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	専属の管理栄養士の指導で、調理器具・食器や台所・冷蔵庫の消毒・殺菌に関する衛生管理マニュアルとチェックリストを作成して、食中毒の予防に努めている。		今後も、食中毒の発生がないように、継続して衛生管理に努めたい。また、利用者も調理に参加することについては、衛生管理を充実させたい。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲に花壇を作り、門扉を設置することで、一般家庭と同じような親しみやすい雰囲気になるように工夫している。	○	防犯のために玄関は常時開放していない。今後はスタッフの対応により開錠時間を少しずつ長くしていきたい。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当事業所の周辺は、自然豊かな環境で季節感に溢れており、食事作りの音や匂い、季節の花々等で五感に働きかけるような心地良い刺激を生活空間に取り入れ、また、出来るだけ自然の空気での換気や温湿度調整を行なっている。		利用者が落ち着いて暮らすことが出来るよう、テレビの音や職員の会話のトーンに配慮し、またレースのカーテンで陽射しや照明度を調整するなど、出来るだけ家庭的な雰囲気を感じていただけるよう工夫している。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外にも、リビングのソファやマッサージチェア、和室の炬燵、中庭のベンチなど、ゆとりと過ごせる場所を確保している。		利用者がゆとりと過ごされているときには、そっと見守りながら、お茶などを提供する等の配慮をしている。
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッドを備え付け、その他の家具や装飾品等はこれまで使い慣れたものを持ってきていただいている。また、ご家族の写真を飾るなど心地よく過ごせる工夫をしている。		今後も継続して、利用者が快適に過ごすことが出来るように努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、適時に窓を開けて換気を行っている。また、エアコン使用時には、各居室に設置した温湿度計で外気との差が大きくなることのないよう、小まめに調節している。		当事業所の周辺は、豊かな自然に恵まれているので、エアコン使用は極力少なくし、自然の風を利用して快適に過ごしていただけるように配慮している。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室・浴槽には手摺や滑り止めを設置し、家具などは事故につながらないように注意・工夫をした配置にしている。		今後も継続して、利用者が安心した生活を送れるよう、更なる安全への取り組みに努めたい。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の入口には表札や暖簾・絵などで、トイレには大きな文字で“便所”と表示し、利用者が迷ったり混乱することのないように工夫している。		今後も継続して、利用者が安心した生活を送ることができるよう、更に工夫を重ねたい。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室の窓辺のフラワーボックスに鉢植えを置いたり、玄関先の花壇に花を植えたりして楽しんでいる。また、夏には中庭で花火をしたり、年末には駐車場で餅つきをするなどの行事を行って楽しんでいる。	○	玄関の周囲や庭・井戸などをもっと活用して、利用者が楽しく活動できるような工夫に努めたい。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 ○ 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 》①毎日ある 《 ○ 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 ○ 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 ○ 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き生きと働いている	《 》①ほぼ全ての職員が 《 ○ 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 ○ 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 ○ 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない